

知念村志喜屋「知念村クレソン生産部会」

生産
部門

湧水を活かしたふるさとづくり (平成15年度認定)



知念村は、地形的に傾斜地が多く恵まれた農業生産の条件地域が多いとは言えない。

そうした中で、強風を防いでくれる知念台地に抱かれ、隣村の玉城村の樋川から溢れる豊富な湧き水に恵まれた志喜屋地区では、吹きさらしを嫌い、絶えず流れる水が必要でデリケートな野菜であるクレソンを、30年前から栽培している。平成13年度には、沖縄県全体の9割以上に当たる100トン余りのクレソンが同地域で生産され、県内外へ出荷している。

クレソンは、機械を使わずに手作業による植え付け・管理・収穫が中心で、軽量であることから、女性・高齢者向けの作物である。そのため、近年では女性・高齢者を中心にグリーン・ツーリズム関連の起業を实践する農家や都市部からのUターン農家が増加しつつある。特に、都市婦人を中心とした収穫体験の受け入れは、農業・農村への理解促進にも寄与するものであり、生産と交流という新たな農村景観の形成を醸し出してきている。

志喜屋地区のクレソン畑は、西側に緑の小高い丘、東側にエメラルドの青い海が臨める位置にあり、清らかに流れる水と共に清々しい潤いのある景観を演出している。クレソンの生育を促進するためには、清流をはじめとしたこれら景観の維持が大切であるという観点から、知念村クレソン生産部会では、定期的な畑周辺の美化と清掃も行っている。

